

基本政策 3 住み慣れた地域での継続した生活の実現

【基本政策の方向性】

介護や支援が必要になった時にすぐに相談ができ、医療・介護・地域・福祉の連携したサービス等を利用しながら、いつまでも住み慣れた地域で、自分らしく生き生きと暮らしていける“まち”を目指します。

5年後の目指す姿

「住み慣れたこの地域で今後も暮らし続けられる」

介護保険サービスや在宅高齢者施策の活用、地域での支え合い活動などの適切な支援を受けながら安心して生活できる環境を整え、様々な社会資源の活用により、住み慣れた地域で今後も暮らし続けられることを目指します。

【数値目標】	現状値	目標値
住み慣れたこの地域で今後も暮らし続けられると回答した人の割合（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）	—	⇒ 現状より+10%（R7）

基本施策

3-1 在宅高齢者の支援

身近な地域で、きめ細やかな相談や支援ができるよう、高齢者あんしん相談センター（地域包括支援センター¹）や関係機関を含めた相談体制の強化に努めるなど、高齢者が在宅生活を継続できることを目指します。

【KPI】	現状値	目標値
在宅高齢者支援施策の満足度 （介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）	—	⇒ 現状より+10%（R7）

【主な取組】 相談体制の充実

在宅高齢者やその家族に対して適切な支援ができるよう、高齢者あんしん相談センターと関係機関の連携を強化します。また、必要なときに速やかに相談につながるよう、相談窓口の周知に努めます。

【KSF】	現状値	目標値
高齢者あんしん相談センターの認知率 （介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）	34.0%（R1）	⇒ 50.0%（R7）

¹ 保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャーなどの専門職が協力して、高齢者の方やそのご家族、地域の方からの、介護保険の利用や生活支援、介護予防など高齢者に関する様々な相談に対応する機関。高齢者あんしん相談センターは、地域包括支援センターの愛称

3-2 お互いの支え合いの推進（共助）

多様な主体による生活支援サービスを拡充し、地域の課題を住民同士で考え、お互いに支え合えるまちづくりを推進します。

【KPI】	現状値	目標値
支え合い活動に取り組んでいる人の割合 (介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)	—	⇒ 現状より+10% (R7)

【主な取組】生活支援体制の充実

生活支援コーディネーター²を中心として、地域における関係機関の連携を強化し、ニーズの把握及び住民主体のサービスの創出やボランティアの育成など、生活支援体制の充実に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
第2層、第3層協議体 ³ 数	—	⇒ 5ヶ所 (R7)

3-3 介護保険制度の推進（公助）

事業所や施設の拡充を進めるとともに、介護人材確保策の強化や介護給付費の適正化の取組を強化し、介護や支援を必要とする方が、必要な時に、適切なサービスを受けられる制度運用を推進します。

【KPI】	現状値	目標値
在宅サービスの利用割合	—	⇒ 現状より+10% (R7)
特養入所待機者数	157人 (R1)	⇒ 120人 (R7)

【主な取組】介護サービスの拡充

ニーズや供給量などを総合的に判断した上で、地域密着型介護老人福祉施設、通所介護施設など、サービス提供事業所の整備等、介護サービスの拡充を検討します。

【KSF】	現状値	目標値
介護事業所・施設数	54ヶ所 (R1)	⇒ 57ヶ所 (R7)

関連するSDGsゴール



介護保険は、最も重要なセーフティネットのひとつであることから、すべての市民に公平で質の高いサービスを提供するように努めます。 関連ターゲット (1-3)



在宅高齢者の支援を強化し、介護者の負担の軽減に努めながら、すべての人々の福祉を推進します。 関連ターゲット (3-8)

² 地域に不足している生活支援サービスの創出や生活支援サービス関係者間の情報共有、地域ニーズとの整合性を図るなどの調整を行う人

³ 協議体とは、地域課題を協議するコミュニティで、第1層協議体はすでに市全域を対象として組織されている。第2層協議体とは、高齢者あしん相談センターの日常生活圏域ごとに組織される。第3層協議体とは、第2層の中の小さなコミュニティで組織される。

関連計画等

富士見市高齢者保健福祉計画（令和 3 年度～令和 5 年度）

関連部署

健康福祉部 高齢者福祉課

